



梅の節句に就いて

東京市富士見幼稚園

小杉 さと

野の末、川の邊にも、色香美しき梅の花が咲き満ちて長閑な春の折柄に梅の節句は、神武天皇の御即位紀元節を祝ひ奉るに誠にふさはしい嬉しき事と感じます。

我が富士見幼稚園では三年程以前より、本校と連絡をこつて、紀元節祝日の数日前より園児を中心として種々様々の設備をなし、神武天皇の御即位の御掛圖を掛け奉り、梅の花の霜雪を凌ぎて、千辛萬苦に耐へ、花さいふ花の魁けをなし、春信を傳ふごころ、昔の昔の大昔より今日二千五百九十二年の祭事を行ふことは我大日本帝國の皇統連綿として、一系萬世に傳ふるは、世界萬國に類ない歴史に深い意味を以つて、山の奥までも、海の果までも、旭の御旗を輝かし國民精神作興の上に、益々其の思想を堅固にしたいと思ひまして園児を通して、是等の話を各家庭に傳へ、

尙又今年青年館で新しく考案された、神武天皇の御掛圖を安價で取次ぎました處、所望の人々が二十餘人もありました様なわけでありましたから、茲に聊か家庭の「梅の節句」に就いての一つ二つを記るさせて頂きます。

設備として

遊戯室の中央に、神武天皇の御掛圖をかけ、今年新に作つた祭壇を設け、其の上に白布を垂れ、前に神武天皇の武者人形を飾り、ボール紙で作つた大きなお三寶に、先づ其の一つには、お洗米を盛り、今一つのお三寶には海の物を盛り、他の一つには山の物を盛り、又「お目出度う」のお菓子を奉り、梅の花を生け、いろいろの手工品をお供へいたしました。

又明治天皇竝に昭憲皇太后の御額を掛け奉り、其の下に明治神宮の繪葉書をならべ、且つ明治天皇の御聖徳に關する繪畫も陳列し、尙又滿洲事變に關する、いろいろの繪葉書も陳列いたしました。

又各部屋の入口には、小國旗を立て、三色モールを以つて、連絡的に飾りをなし、室内を整理して、上座におぼし

き處に、神武天皇の御掛圖を掛け、戸棚の上に梅の花を生け、尙園兒の自由繪畫を掲示板に貼り出し參觀に供しました。

家庭より寄せられた文の 一一一

皇國の誕生日であり、又皇國の御正月である紀元節は今さら申し上げるまでもなく、皇國の御儀式として國家の行事でございます。

此の紀元節に私共の家庭では從來赤飯なごを供へお祝をいたして居りましたが、昨年「建國祭梅の節句」にして一般家庭の年中行事とし、子供を中心に楽しいお祝日にしたいと云ふ趣意を學校及び幼稚園より御通知がございましたので聊か祝ひ事も致しました。ところが、本年幼稚園におきましては此の日、掛幅、盛花、お供物等の立派なお飾りをして園兒一同を集め小杉先生より、我國の誕生日としての紀元節に就いていろいろ有益な訓話がございまして、その後で皆さんのお家でもお祝ひするやうに園兒達におつしやられました由、昨年から幼稚園に通つてをります子供が歸つて、小杉先生のお言葉を申し傳へて、お家

でもおまつりして頂戴ししきりにねだりましたので、私共では幼稚園に御願ひいたし、幸ひ建國祭本部より掛物を求めましたので、これを床の間に飾り、白梅を生け、供物として水無飴、蜜柑、林檎、菓子等をお盛りして、梅の節句のお飾りが出来たわけでございます。

此の日は子供達を中心に書生女中にまで供物を預け、一家樂しく嬉々として建國の昔を偲び日本國民として意義ある一日の幸福をしみじみ味つたのでございます。將來も此の意義ある行事は一家庭にこりましても重要な事柄を考へられますので、私の家庭では永久に年中行事の一として行ふ事にいたします。幼稚園々兒學校兒童の御家庭は素より全國いかなる御家庭に於きましても是非共此の梅の節句を年中行事中の重要な一つに加へて二月十一日の紀元節を民衆家庭のお祭として益々盛にし、皆様と共に建國の昔をお偲びしたいと思ふのでございます。

○

紀元節を數日後に控へた或る日、子供が、富士見幼稚園の小杉先生から神武天皇様のお話を伺ひ、且つ建國祭紀念

のために、檀原御即位式の御掛圖をお譲り下さる由を聞き傳へました。私共では紀元の佳節を併せて建國祭として家内中にてお祝ひする事はこの二三年來つづけて行つてまゐりましたが、御祭壇の中央にお祭り致しますのは明治大帝と昭憲皇太后兩陛下の御製を阪正臣氏が御謹書申上げられたお軸でございます。然るにこの度重ねて重大なる意義を齎らすお掛圖のお話にて、家内中大喜びにて早速御分ぶん譲を申出で、尙、知人三四のお方々へもお取次ぎして共々に國民年中行事の第一位に出来得る限り家庭的にも盛大にお祝ひ致さうとお申し合せを致したやうな次第でした。

——當日、子供が幼稚園から歸宅します前に、すっかり床の間のお飾り付けを終りました。一名、梅の節句の別稱も起つてをります昨今の事にて、兩側に梅花を生け、中央御掛圖の前に神式で致します御供物になぞらへて海のもの山のものを御神酒、御赤飯、そして、季節の果物蜜柑、林檎等に、特に子供の注文のお團子と草餅をお飾り致しました。子供は朝、一度御神前に額かたぐきましたが、歸宅後再び家内中にて一座、御拜いたし御默禱を捧げ奉りました。

後子供に史話を聞かせました。

この朝、靖國神社へは、建國祭行進参加のために三々五五人々は往還わうくわんを通つていつになく賑々しうごうざいしました。する内、かねて招いてゐた親類の子供達も集つてまゐりましたので、靖國神社を参拜させ遊就館を觀覽させまして、丁度お八つ時になりましたので、一同卓を圍んで早目な晩餐式なつぎひをいたしました。

昨今の子供は大變はつきりミ建國の大精神を理解してゐます事をよろこばしく感じました。史上の一事實ミしてよりも、切實な國家共存の意義の上に、幼い頭に、國際的な意味をさへ加味して咀嚼されてゐる事を、子供ミの談話中にいろいろミ知り得まして、一に、幼稚園教育の有難さを、また一に、皇國の傳統的國民性を慶賀いたしました次第でした。

この夜、ラヂオの催し物にても、子供は愉快なる紀元節を迎へ得たのでした。學校で式典があつたり、午後休校であつたり、お祝ひ菓子を幼稚園から頂いたり、宅でいろいろな御馳走になれたり、あたりが何ミなく朗らかに賑は

しかつたりする。紀元節の記憶を、幼な心にお祝ひ日として、お芽出度い日として永遠に培ひ育てる事を、紀元節に建國の二字を差し加へるためにより以上、切實な感じミして、國家ミいふ觀念にまで突き進み得ます事を實に悦ばしい事に感じます。當年七八歳になります区にもごうやらそれが理解されました事を、殊に、今年の紀元の佳節に、かつて建國の佳辰に國家多端な國際關係に樹たちます國民の——しかも第二國民の悦ぶべき行事でございました。これも偏に小杉先生から有難いお掛圖のお分譲を得ました機縁に依るものミ、深く幼児御教導の任にあられる同先生の御懇情を感謝いたします次第でございます。